

コムギ赤かび病の発病程度と篩い目の違いによる混入量

古川農業試験場

1 取り上げた理由

ムギ類赤かび病菌が産出するマイコトキシンの問題により、農産物検査規格（被害混入量：4/10,000以下）が厳しくなり、また厚生労働省ではコムギのデオキシニバレノール（DON）の暫定的な基準値（1.1ppm以下）を設定した。これにより、現場では赤かび病の防除を徹底すると共に、発生したほ場では抜き穂や刈り分け等により対応した。そこで、これらを実施する場合の目安として、平成14年播種シラネコムギの1罹病穂当たりに含まれる赤かび病粒数から、4/10,000粒以下となるほ場での発生量を推定したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 赤かび病 1 罹病穂当たりに含まれる被害粒数は、篩い目を2.4mmとした場合、平均0.49粒で、混入率が4/10,000粒となるほ場での発病穂率はおよそ3.3%と推定される（図1）。
- 2) 粒厚別に見た罹病穂 1 本当たりに含まれる被害粒数は、篩い目2.8以上では極めて少なく、2.4mm以下になると急激に増加する（図2）。
- 3) 平成14年播種のシラネコムギでは、2.4mm以上で選別した場合の収量に対して、2.6mm以上では約1割、2.8mm以上では約3割減収する（図3）。

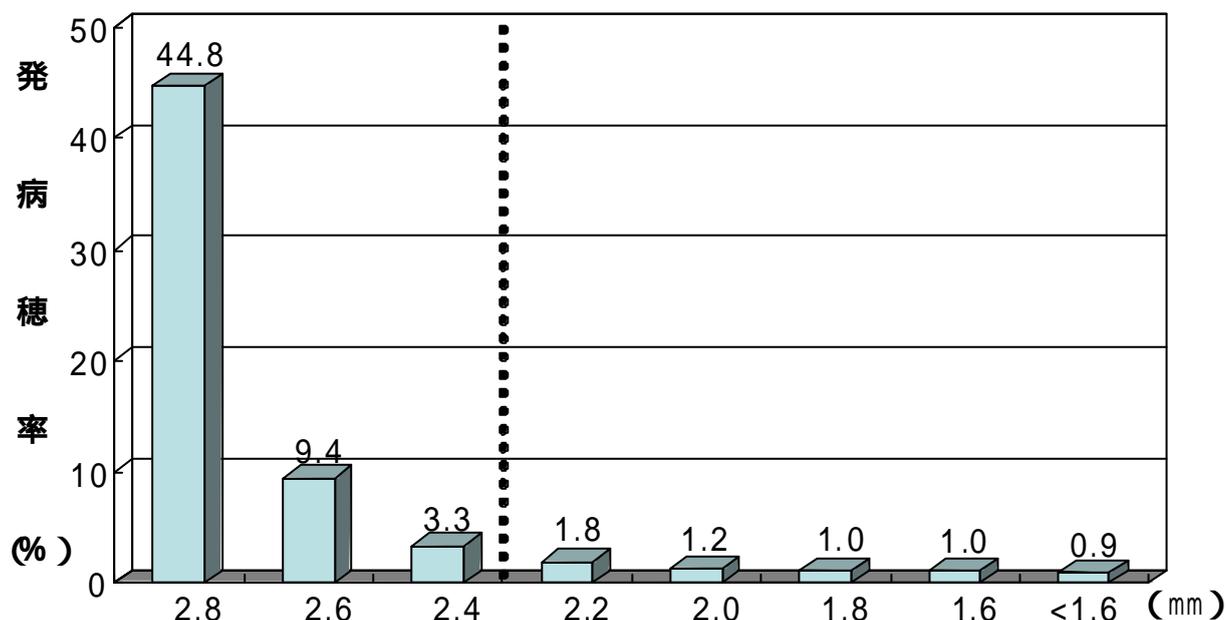


図1 篩い目別赤かび病罹病粒混入率が0.04%になる推定発病穂率

1穂当たりの粒数を40粒として算出した。

3 利活用の留意点

- 1) 平成14年播種のシラネコムギ（仙台市，鹿島台町，桃生町）での結果である。
- 2) 基本防除を実施したシラネコムギでの結果であり，他品種や無防除ほ場では別途検討が必要である。
- 3) 後期に進展する気象条件での被害は推定値より増加すると考えられる。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

平成16年4月作成

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

発生予察技術支援対策事業：平成15年

2) 参考データ

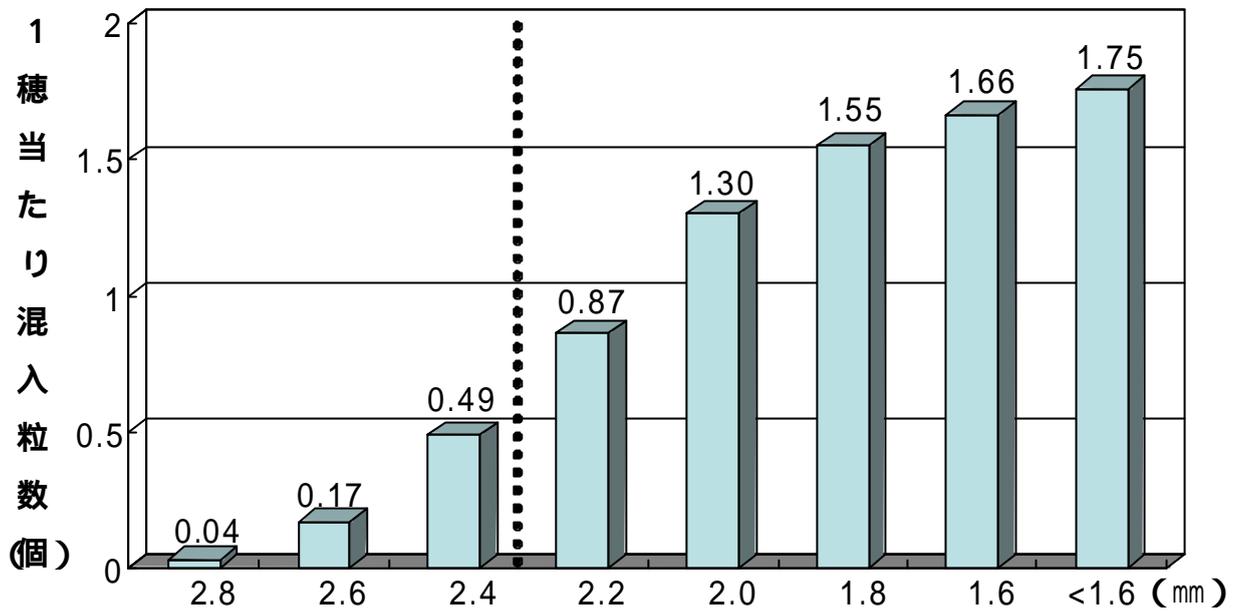


図2 罹病穂 1本あたりに含まれる赤かび病被害粒数とその粒厚分布

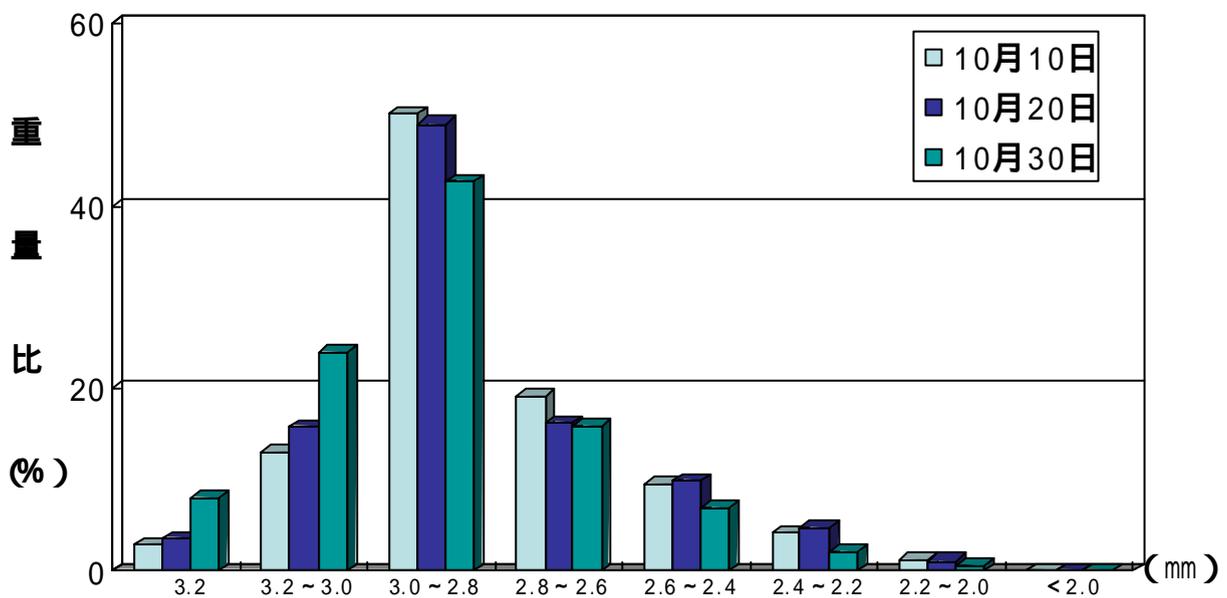


図3 粒厚別重量比 (平成14年播種：シラネコムギ)

凡例は播種月日を表す。

3) 発表論文等

特になし